
Call from Monolith

天月黎璽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Call from Monolith

【Nコード】

N05620

【作者名】

天月黎璽

【あらすじ】

その肝試しは、ほんのお遊びだった。そのお遊びが彼らを引きずり込んだ。

麻黒のもとにそれが届くようになったのは一カ月前からである。あの日の夜、彼は数人の仲間と共に、ある噂を確かめに行ったのだ。つた。

彼らは退屈しのぎに肝試しをしようと、ある場所へとおもむいた。そこは町の外れにある森の奥の小高い丘で、いわゆる怪しい噂が絶えない場所である。その場所に関する数ある噂の中で、特に彼らの興味を引いたのは「そこには、いくつかの墓標の様なものが建っている」「どこからか人がやってきて、そこで何か儀式的なことを行っている」というものである。

夜、彼らは森の入り口から自動車を進めるところまで進み、そこからは懐中電灯を手に、歩いて丘へと向かった。迷うことの無いよう、十分な長さのロープを数本用意し、最初の一本をバンパーに結び付け、それを各々が持つて列を成して進んでいった。

しばらくすると丘が見えた。ロープはまだ2本残っていた。森を抜けてみると、確かにそれは建っていた。ロープを結び丘を一周してみると、それらが全部で9つ在り、それぞれ大きさにバラつきがあること、そしてV字に並んでいることが分かった。彼は、ふと、以前図鑑で見た「牡牛座」を思い出した。V字を結ぶ一箇所に、高さ2m程のそれが3つ密集して建っており、さらにそれらの左隣には一際大きなものが建っていたからである。月光を受け怪しく赤く光るそれは、まるで牡牛の赤い眼、アルデバランの様であった。

建造物は確かに在ったが、どうやらそれだけの様なので一行は戻ることにした。ロープを回収しながら再び森へと踏み込んだ時であ

る。全員が立ち止まり、丘へと振り返った。地上の牡牛座は、何かを待つ様に静かに建っていた。呼んでいる 麻黒はその時、何故か直感的にそう思った。

その後、森を出た彼らは、そこから一番近い者の家で飲むことにした。しばらく飲んでる内に酔いが回り、いつの間にか皆眠ってしまった。眠りの中、麻黒のもとにそれが届いた。「…い…い…来い…」 「来い」そこで眼を覚ました。すぐ耳元で言われたかの様にはつきりと聞こえた。それが何だったのか考えていると、床に何か落ちた。水、いや、汗である。彼は、自分が大量の汗をかいていることに気付いた。

それから眠りに就くたび、謎の呼び声は彼のもとに届いた。そうして徐々に彼の神経は磨り減っていき、それに比例する様に不思議な夢を見るようになっていった。そして今、それははつきりとしたものになった。

夜空にはアルデバランが輝いていた。そして、地上にもまた。あの丘の上の牡牛座、その赤い眼の前に彼はいた。彼の他にも何人かの者がそこに集い、皆で何か不思議な祈りを捧げていた。やがて、祈りの中、麻黒は立ち上がり血の生贄を捧げた。生贄達は次々と牡牛の眼に飲み込まれ、その度に地上のアルデバランは一際赤く光った。最後の生贄が飲み込まれた時、地上の眼は怪しく輝き出し、それに伴い夜空の眼の輝きも増した。突然、夜空が消え、辺りは闇に覆われた。怪しく輝く地上のアルデバランのみが明かりとなった。その僅かな明かりに、薄らと照らし出された途方も無く巨大な影。禍々しい牙と爪とを有する肉食恐竜の様な頭と脚、蛸の皮膜の様な翼を広げたその姿は、架空の生物であるドラゴンを思わせた。

夢の中でのドラゴンと遭遇してからの麻黒は、すっかり夢にと

り憑かれてしまい、そうして何故か仲間達は彼を避けるようになった。

それから数週間過ぎた頃、彼らは皆、失踪した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0562o/>

Call from Monolith

2011年11月16日09時46分発行